

提 言 書

「『未知への挑戦』とくしま行動計画」
の評価結果について



令和2年10月

県政運営評価戦略会議

は じ め に

県政運営評価戦略会議（以下「戦略会議」という。）では、県政運営指針である「『未知への挑戦』とくしま行動計画」（以下「行動計画」という。）について、主要施策ごとの進捗状況の評価等を実施した。

今年度は、令和元年度に策定された行動計画の初回評価として、「令和元年度の取組及び成果」を基礎としつつ、会議における委員間の協議の結果も踏まえ、総合的な評価を行った。

また、とくしま目安箱に寄せられた「県民からの意見・提言」の中から、県の施策に反映すべき優れた意見・提言として9件を採択した。

ここに、評価結果等を「提言書」として取りまとめたので、徳島県総合計画審議会において速やかに御協議いただき、行動計画の改善見直し、新たな施策展開等に御活用いただきたい。

令和2年10月26日

県政運営評価戦略会議
会 長 石田 和之

目 次

	ページ
I 行動計画の評価について	1
1 評価方法について	1
(1) 評価の対象	1
(2) 判定・評価の単位	1
(3) 判定・評価の基準及び手順	1
(4) 戦略会議の開催状況	1
2 評価結果について	2
(1) 総括	2
(2) ターゲットごとの評価結果の概要	4
(3) ターゲットごとの意見	5
(4) 総括的, 総合的な意見	1 1
(5) 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』への反映	1 2
II 「県民からの優れた意見・提言」の採択について	1 3
戦略会議委員名簿	1 4

(行動計画評価別冊) 判定結果, 評価結果及び評価シート

I 行動計画の評価について

1 評価方法について

評価基準を更に客観化し、行動計画の改善見直しに向けた「委員からの提言」により重きを置くため、今年度から評価方法の見直しを行った。具体的には、数値目標達成率による「事業」ごとの客観的、機械的な「ABC判定」を行った上で、改善見直しにつながる提言等を踏まえた「施策」ごとの「委員評価」を行った。

(1) 評価の対象

行動計画に位置付けられた主要施策（91施策）の「令和元年度の取組及び成果」を評価の対象とした。

(2) 判定・評価の単位

- ① 判定
主要事業（606事業）を判定単位とした。
- ② 評価
主要施策（91施策）を評価単位とした。

(3) 判定・評価の基準及び手順

- ① 判定
担当部局があらかじめ作成した評価シートを基に、「数値目標」の達成率を基礎として、「主要事業」の達成率を算出し、次の区分のとおり、A、B又はCの3段階で、客観的、機械的に判定した。

主要事業ごとの「判定」区分		
A	B	C
主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 90%以上	主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 80%未満

- ② 評価
判定結果から算出した評価案を基に、会議における委員協議の結果を踏まえ、「順調」、「要注視」又は「要改善」の3段階で評価した。

主要施策ごとの「評価」区分		
順調	要注視	要改善
主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 90%以上	主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満	主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 80%未満
委員の「評価に対する意見」「改善見直しにつながる意見」を加味		

(4) 戦略会議の開催状況

7月17日（金）、31日（金）、8月7日（金）及び10月26日（月）の4回にわたり開催した。

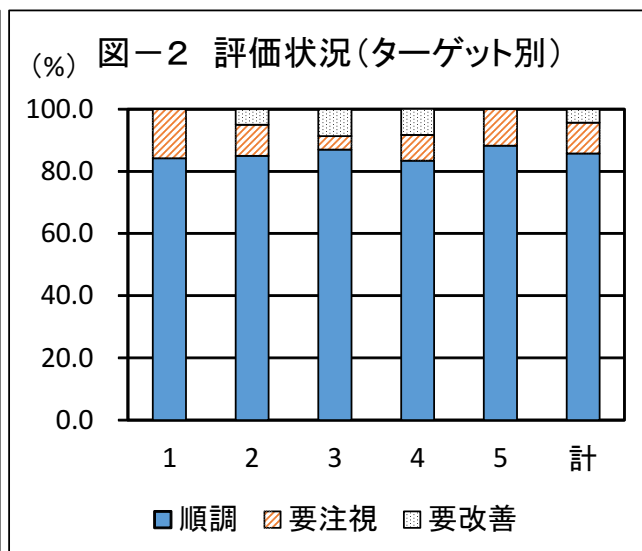
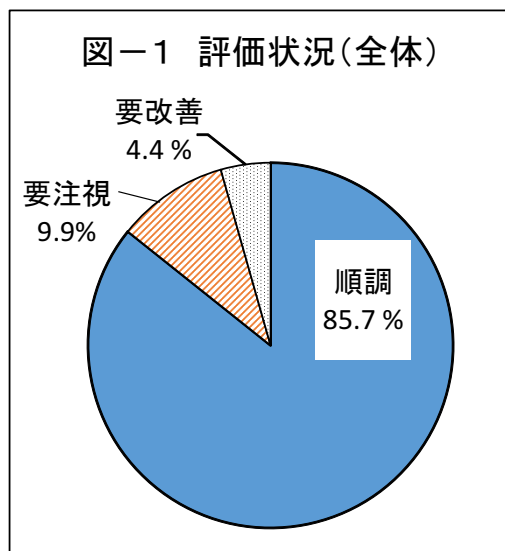
2 評価結果について

(1) 総括

今回の初回評価の結果は、次の表－1のとおり、
 「順調」と評価したもの 78施策 (85.7%)
 「要注視」と評価したもの 9施策 (9.9%)
 「要改善」と評価したもの 4施策 (4.4%) となった。

表－1 主要施策の評価結果

ターゲット	評価区分						主要 施策数
	順調 (%)		要注視 (%)		要改善 (%)		
1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	16	84.2	3	15.8	0	0.0	19
2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装	17	85.0	2	10.0	1	5.0	20
3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装	20	87.0	1	4.3	2	8.7	23
4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装	10	83.4	1	8.3	1	8.3	12
5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装	15	88.2	2	11.8	0	0.0	17
計	78	85.7	9	9.9	4	4.4	91



表－２ 評価の基礎となる主要事業の判定結果

ターゲット	判定区分								主要事業数
	A (%)		B (%)		C (%)		判定外 (※) (%)		
1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装	90	67.7	10	7.5	7	5.3	26	19.5	133
2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装	91	57.3	4	2.5	8	5.0	56	35.2	159
3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装	115	69.3	6	3.6	9	5.4	36	21.7	166
4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装	30	66.7	2	4.4	3	6.7	10	22.2	45
5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装	65	63.1	1	1.0	3	2.9	34	33.0	103
計	391	64.5	23	3.8	30	5.0	162	26.7	606

※ 判定外とは、主要事業ではあるが数値目標の設定が適さないものや、数値目標はあるがその実績が判明していないもの等である。このような事業については、その取組状況を評価の参考としている。

表－３ 過去の計画の初年度評価との比較

計画 評価	いけるよ！徳島・行動計画		新未来「創造」とくしま行動計画		「未知への挑戦」とくしま行動計画	
	H23		H27		R元	
	主要事業	%	主要施策	%	主要施策	%
順調(A)	348	47.2	105	73.0	78	85.7
要注視(B)	341	46.3	29	20.1	9	9.9
要改善(C)	48	6.5	10	6.9	4	4.4
計	737	100.0	144	100.0	91	100.0

(2) ターゲットごとの評価結果の概要

今回の評価において、見直しが必要な「要改善」と評価されたものが4施策、構成比にして4.4%あった。

ターゲット2においては、主要施策「ひとに寄り添い支える体制づくり」を「要改善」と評価しており、その要因には「自殺対策」や「生活保護受給者への就労支援」にかかる事業の数値目標の達成率が低かったことが挙げられる。

なお、「自殺対策」の数値目標となっている「自殺死亡率」は、国の目標水準の前倒し達成を目標とした高い設定ではあった。

ターゲット3においては、主要施策「充実した学びの推進」及び「豊かな心と健やかな体の育成」を「要改善」と評価しており、その要因には「児童生徒の学力向上」や「児童生徒の体力向上」にかかる事業の数値目標の達成率が低かったことが挙げられる。

「児童生徒の学力向上」の数値目標となっている『全国学力・学習状況調査』における県平均正答率では、その課題として「活用」に関する問題に弱いことが挙げられているが、委員からは「その活用こそ重要ではないか」と指摘されている。

ターゲット4においては、「徳島アスリートの育成強化」を「要改善」と評価しており、その要因には「国民体育大会」や「全国高等学校総合体育大会」にかかる事業の数値目標の達成率が低かったことが挙げられる。

これについては、委員から施策の方針の再検証を求める意見や「児童生徒の体力向上」にかかる事業との関係性も分析し、広い視野で取り組むべきとの意見があった。

ターゲット1及びターゲット5においては、「要改善」と評価された施策はなかったものの、全てのターゲットに共通することとして「順調」と評価された施策については、引き続き現在の取組を推進するとともに、「要注視」と評価された施策については、現在の取組内容や課題をしっかりと分析していただき、来年度評価においてその成果を見せていただきたい。

(3) ターゲットごとの意見

委員から、5つのターゲットごとに、次のような意見が出された。行動計画の改善見直しに際し、十分に参酌していただきたい。

ターゲット1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

- ア 新型コロナウイルス感染症の影響で働き方が変化しており、基本的には徳島に住みながら、テレワークで都市部の会社に勤め、週数回出勤するという働き方が可能性として高まってきている。
このことを踏まえ、移住・交流施策について、今後は、移動コストの面で徳島から往来しやすい関西圏を重点ターゲットとしてはどうか。
- イ ウィズコロナ・アフターコロナ時代において、働き方が大きく変化する中、地方への大きな人口回帰に向けた追い風を捉え、ICTをはじめとする徳島の魅力の情報発信を一層強化してもらいたい。
- ウ 移住・交流施策について、移住先の選定基準の一つに、密を避け、感染症のうつりにくい環境で生活できるという点が新たに出てきている。その点を徳島の魅力として発信していけるよう今後取り組んでももらいたい。
- エ 新型コロナウイルス感染症のPCR検査について、症状がない場合でも自費で検査を受けられるような運用も必要ではないか。
- オ ウィズコロナ・アフターコロナ時代という新たな局面を迎える中、新型コロナウイルス感染症と共存しながら、より良い県政となるよう邁進してほしい。
- カ 「徳島ファン・ドラフト会議」の開催地については、東京都だけではなく、航空便のある福岡県や関西広域連合の地域も含めて、検討してほしい。
- キ 「デュアルスクール」のモデル試行について、新型コロナウイルス感染症の影響で都市から地方への分散化が進む中、地方の魅力を伝えるときに、この取組が生きてくると思うので、制度化に向けて進めてほしい。
- ク 光科学の先端技術など光系教育について、大学と連携しながら、高校生以下の世代への魅力発信にも取り組んでいただきたい。
- ケ 「きゅうりタウン構想」や「にし阿波・地域連携ビジネス」のような成功例について、市町村と連携して県内で横展開することにより、徳島ならではの価値の磨き上げや新たな流通網の開拓につなげてもらいたい。
- コ 阿波おどりの通年化について、有名連の練習風景の観光資源化に取り組むとされているが、関連する目標数値が設定されていないので、是非、具体的な取組を検討してもらいたい。
- サ 新型コロナウイルス感染症の影響による外食産業の低迷の事態を打開するため、「阿波ふうど」の取組を核として、市町村単位の関係者を交えた対策会議を行い、県がリーダーシップをとって、早急に課題解決の具体化に取り組んでももらいたい。

- シ 「阿波ふうど」の認知度を向上させるため、他県の例も参考として、インパクトのあるラッピングバスを運行させることにより、「阿波ふうど」の魅力を発信してはどうか。
- ス 徳島の文化について、四大モチーフに関しては、様々な取組が推進されているが、「大谷焼」や「阿波和紙」といった四大モチーフ以外の徳島が誇るべき文化についても、今後、施策の中に取り上げてもらいたい。
- セ 健康で活動的に頑張っている高齢者に対して、表彰や感謝状の贈呈等を行い、顕彰することにより、アクティブシニアの更なる活躍の推進につながるのではないか。
- ソ 学校給食における地場産物の活用については、子供の頃から味覚を磨くことができ、また県内の経済が回るという一面もある。
多種多様な一次産物を生産する徳島の魅力を生かして、更に施策を推進してもらいたい。
- タ 肥満傾向の児童生徒数について、新型コロナウイルス感染症の影響で、今後も外出自粛傾向が続くと生活習慣が乱れ、肥満の原因につながると思うので、学校と家庭が連携し、継続的で更に踏み込んだ取組を検討してもらいたい。
- チ 今の時代、アクティブシニアの活躍推進のためには、高齢者のICT活用能力を底上げする必要がある。
そのための取組として、例えば、高齢者の「eスポーツ」チームを推進するといった、徳島ならではの施策を検討してもらいたい。
- ツ シルバー大学校は、県内各地に設置されており、特に人気のあるICT関係の講座では、高齢者のICT活用能力の底上げという面でも一定の機能を果たしているので、引き続きアクティブシニアの活躍推進を担う事業として期待している。
- テ 「農福連携」については、農家の人手不足と働き場を求める障がい者とのマッチングによって、課題を解決している成功例でもある。
新型コロナウイルス感染症の影響で障がい者の働き場所が減っているという状況も踏まえて、更なる事業の推進をしてもらいたい。
- ト 待機児童について、希望の保育施設に入所を断られた場合、特に共働き世帯では、無理をしながらでも遠くの施設に入所している例もある。
子育て支援の施策について実情を把握するための指標としては、待機児童数だけではなく、入所を断られた数も加味すべきである。
- ナ 待機児童について、新型コロナウイルス感染症で働き方が変化中、小さな子供を持つ親の在宅ワークを推進することで、待機児童の削減につながるような施策を検討してもらいたい。
- ニ 調査によると、県内や県出身の若者は、徳島での生活の魅力として、全体的な住みやすさを実感している。
彼らが将来家族を持ったとき、帰ってきたいと思えるように、子供を産み育てやすい場所を今しっかりと整備すべきである。

ターゲット2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装

- ア 災害対策に「新しい生活様式」を踏まえた対応策を早急に取り入れるとともに、新たな対応策に県民がスムーズに対応できるように普及啓発を組織横断的に検討すべきである。
- イ 今後、感染症への対応を迅速かつ的確に進めるためには、マイナンバーを医療情報等と連携させ、様々な場面で有効活用することを検討するべきではないか。
- ウ 小水力発電については、化石燃料や原子力発電に頼らない近い将来の自然エネルギーとして、普及促進すべき課題である。そのため、引き続き施策を推進してもらいたい。
- エ 「漁協版BCP」等について、漁業再開や営農に際して業務継続力を発揮するためには、様々な人たちの意見をまとめるファシリテーション能力を持った人材が求められる。BCP策定に当たっては、そのような人材育成について具体的に盛り込んでもらいたい。
- オ 鳥獣被害について、全県的に被害が拡大しているので、防止に向けて一層施策の推進に取り組んでももらいたい。

ターゲット3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装

- ア マイナンバーカードの交付促進のため平成29年度から「徳島県ポイント」を発行しているが、「ポイント交換率を上げる」、「ポイントを交換したくなるような特産品を用意する」など、メリットを付与することで、利用が増えるのではないか。
- イ 技術革新が急速に進む中、第4次産業革命にも対応する人材育成は非常に重要な施策であるので、行政においても、引き続き様々な取組を行っていただきたい。
- ウ 観光誘客の推進について、インバウンドの施策がクローズアップされがちであるが、国内観光の方がマーケットが大きいので、国内観光にもしっかりと目を向けて施策を打つべきである。
- エ 新型コロナウイルス感染症の影響で旅行控えが続く中、「とくしま応援割」をはじめとした取組は、県民のニーズを捉え、かつスピード感のある対応であり、高く評価できる。
次のステップに進むときには、感染の状況や関係業界をはじめとする県民の思いを十分に考慮し、方向性を決定してもらいたい。
- オ 観光アプリについて、県外の方がこのアプリをきっかけに来県に興味を持つような仕掛けがあった方がより効果が大いと思う。
ダウンロード時の特典付与やアプリから観光サイトにアクセスさせる仕組みづくり等、複合的に検討してもらいたい。
また、徳島県民以外の方がダウンロードし、「徳島へ行ってみよう」という気になるような仕掛けが効果的と考えるので進めてもらいたい。

- カ クルーズ客船の寄港について、乗客や観光バスの往来で大きな影響を受ける地元との調整を密に行うとともに、おもてなしの面等で地元が協力できることがあるので連携を図っていただきたい。
- キ 農地には、農業生産の機能だけではなく、農村景観の維持、生物多様性の保全、洪水の低減といった機能もあるので、そういった観点にも配慮した上で、農地集積を進めてもらいたい。
- ク 水産物の養殖品種の導入は、供給の安定、漁業者の収入の安定につながり、ひいては後継者不足の解消にも寄与すると思うので、ちりめんの養殖試験など引き続き新たな魚種の導入を検討してほしい。
- ケ ICTを活用した遠隔授業による教育が推進される中、各家庭でのICT機器や通信の環境も考慮した上で、児童生徒が平等に教育を受けられる環境整備を徹底するとともに、教員に過度な負担をかけないように配慮してもらいたい。
- コ オンライン授業では、生徒の学習意欲の差が学びの進捗に特に大きく影響するため、生徒の主体性を磨く教育が重要になる。
また、生徒の個性に応じてオンライン授業と対面授業を使い分け、皆が平等でかつ成績を上げられるような仕組みが必要である。
- サ GIGAスクール構想について、今非常に重要性を増している事業であるが、「人に会う」「自然を感じる」など、リアリティな実体験が少なくなることが心配である。
対面授業でしか得られない学びもあるので、バーチャルとリアリティのバランスをとりながら進めてほしい。
- シ 小規模学校は増えており、きめ細やかな教育で充実しているとはいえ、自分の学校内での成績で満足しがちである。
学校の枠を超えて自分の成績が認識できるような仕組みづくりをすることで、子供たちの競争心や切磋琢磨の心を養ってほしい。
- ス 高知県との合区で行われた参議院選挙では、徳島県の投票率は非常に低く、将来の有権者となる児童生徒に向けた主権者教育の充実がますます重要となっている。
- セ 「全国学力・学習状況調査」について、本県は「知識」に関する問題より「活用」に関する問題が弱いということである。
いろいろな知識を活用する能力がより重要であると考えられ、そこが弱いことは問題ではないか。活用する能力を伸ばす教育を展開してもらいたい。

ターゲット4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装

- ア 文化を考えるとときに徳島市の音楽ホールがないというのは、非常に大きな課題だと思う。徳島市民だけでなく、多くの県民が利用するので、徳島市と連携してなるべく早く良い音楽ホールをつくっていただきたい。
- イ 「マチ★アソビ」について、運営体制には変更があったものの、引き続き、これまで県を挙げて育ててきた徳島のアニメ文化を発展させてもらいたい。
- ウ 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録への施策について、「ふるさと納税制度」によるクラウドファンディングを活用した遍路道の整備や遍路小屋への Wi-Fi 設置の取組は、徳島ならではの施策として高く評価できるので、引き続き、世界遺産登録に向けて施策を推進してもらいたい。
- エ トップアスリートの育成強化について、中高の体育大会での団体種目の入賞が少ないという結果が出ている。
団体競技はいざ中学校で始めるとなっても、すぐにはできない地域がある。小学校の頃から指導が受けられるなど、児童が団体スポーツに取り組むことのできる仕組みをつくってほしい。
- オ アスリートの育成強化について、国体や高校総体で結果を出すためには、マイナースポーツにも力を入れて強化するとともに、トップ選手に対するフォローについてどこに重点を置くべきか、方針を再検証することが必要ではないか。
- カ 勝浦町における恐竜化石の発見については、非常に貴重な資源であり、集客力もある。
文化の森総合公園での展示による児童等への教育をはじめ、様々な場面で積極的にこれを有効活用してもらいたい。

ターゲット5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装

- ア 「循環とくしま・持続社会」の実現には、しっかり取り組まれている。
しかし、地球温暖化の影響が問題となる一方、熱中症の予防の観点から冷房の重要性が高まるというジレンマもあり、すぐには成果が出てこない分野かと思うが、引き続き重点的に取り組んでもらいたい。
- イ 人工造林の推進に当たっては、担い手を育成する取組が実施されているが、作業現場の奥地化が進んでおり、急傾斜のため作業者への負担が大きくなっているという問題もあるので、それについても軽減する対策が必要である。
- ウ 食品ロスの解消のためには、大人に向けた取組だけでなく、学校給食でも食品残渣が多く出ていることから、子供の頃から食べ物の大切さを伝える教育に取り組む必要がある。
- エ 自然エネルギーについては、脱炭素社会の実現や災害時の電力安定供給につながるので、小水力発電のほか潮流発電など様々な方法で取組を推進してほしい。

- オ コウノトリについて、先般、耕作放棄地に餌場のビオトープが完成したが、今後、他の場所でのビオトープの整備に当たっては、県と鳴門市が協力し、整備計画の後押しとなる支援をしてもらいたい。
- カ 「徳島県SNS」の利用登録数について、徳島県の数値のみではどう評価すべきか判断が難しいので、比較考量できる他県の情報を数値目標の考え方・算定根拠として記入してもらいたい。
- キ ふるさと納税について、財源確保の観点だけでなく、徳島ファンを広げるといふ観点からも、全国へ徳島の魅力を発信するチャンスであるので、寄附金額の増加だけでなく、寄附件数も更に上げられるよう尽力してもらいたい。
- ク 全国初となる木造4階建ての県営住宅の整備を図る「awa もくよんプロジェクト」について、徳島の林業にとっても非常に良い取組であるので、市町村をはじめ、他の公共建築物等へ普及させてほしい。

(4) 総括的、総合的な意見

行動計画全体に対して、次のとおり数多くの総括的、総合的な意見が出された。については、行動計画の改善見直しにおける大局的又は技術的な指針の一つとして、念頭に置いてもらいたい。

ア 今回は1年目ということもあり、全体的に比較的良い評価結果となったが、次年度以降も引き続き着実な施策を推進してもらいたい。

イ 行動計画の初年度においてB、C判定であった事業については、しっかりと分析してもらいたい。
次年度以降はその分析を踏まえて目標設定の根拠を評価シートに記載してもらいたい。その内容を見せていただき、今後の評価を行いたい。

ウ 「命と健康を守る」という重点戦略について、いろいろな施策の数値目標を掲げているが、それらが総合的に効果を発揮して、最終的な結果を示す数値としては、「健康寿命が何歳延びたか」という点だと思う。
そういうものを数値目標としていろいろな具体的な施策をやっていく方が分かりやすいのではないか。

エ 計画に取り上げられる諸問題は、SDGsのように各々が連鎖していると考えられる。
例えば、アスリートの育成強化についても、肥満傾向の児童生徒数の増加がその一因となっていると考えられるので、低年齢層のうちから生活スタイルを論理的に分析して改善し、長い目で国体や高校総体で結果を出すという考えで、広い視野を持って問題解決に取り組むべきではないか。

オ 新型コロナウイルス感染症に関する県の政策について、県民に向け、具体的に分かりやすい形で「見える化」し、あらゆる機会を通じて周知徹底してもらいたい。

カ コロナ対応を進める中で、徳島という地域の良さを知り、本県に目を向ける方は多くなっていると感じる。地方に帰っても働きがいのある場所となるよう努力すべきである。

キ 今年度事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で、計画全体的に、特に集客を伴う事業、直接体験が重要な事業は、非常に厳しい実績となることが予想される。
財源の問題はあるが、IT化を進めるなど補完的な代替手段をできる限り検討すべきである。
民間では根本的にビジネスモデルを変えなければならないという現象も増えてきている。公共部門でもそもそもパラダイム転換すべき項目があることも念頭に置き、これからの施策に取り組んでももらいたい。

ク 来年度に実施する評価については、多くの施策結果に新型コロナウイルス感染症の影響が及ぶことが想定される。しかし「コロナ対応があったから事業ができなかった」という理由は成り立たないので、そのつもりで本年度事業に取り組んでいただきたい。本来の事業ができなくとも代替案はあるはずである。

(5) 『未知への挑戦』とくしま行動計画』への反映

本年度評価は行動計画の初年度であり、比較的良い結果が想定されていたが、「順調」が85.7%、「要注視」も9.9%であり、まずまず順調な船出であったと評価する。

しかし、初年度ながら「要改善」も4.4%存在しており、その詳細な分析を求めるとともに、分析結果は行動計画の改善見直しに反映されたい。

新型コロナウイルス感染症の拡大以降、県政運営はその影響を大きく受けており、今後しばらくは避けられないだろう。

困難な状況下ではあるが、新型コロナウイルス感染症への対応を理由として行動計画の実績の悪化が許容されるわけではない。

このことを念頭に置き、社会変化に即応し、迅速かつ柔軟に施策の方向性を検討し計画化、そして実行されることを強く望む。

各分野の第一人者で構成する第三者機関である戦略会議の委員から今回提言のあった、県政全般に及ぶ具体的な提案や、新たな課題についての指摘、また社会の変化を前向きに捉え施策に反映する意見などを(3)及び(4)に掲載しているので、ひとつでも多くの提言が『未知への挑戦』とくしま行動計画』の進化に寄与することを願う。

「人口減少」「災害列島」という2つの国難に加え、新型コロナウイルス感染症への対応（ウィズコロナ・アフターコロナ時代への移行）の中、県政を推し進めていくことは、まさに「未知への挑戦」であり、徳島ならではの知恵と工夫で、全庁一丸となって取り組むことを求めたい。

II 「県民からの優れた意見・提言」の採択について

令和元年7月から令和2年3月までの間に「とくしま目安箱」に寄せられた意見・提言のうち、次の9件を「県民からの優れた意見・提言」として採択した。

これらの意見・提言について、その趣旨を十分に踏まえ、できる限り施策等に反映していただきたい。

戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

	項目	意見・提言の内容
1	災害避難所のコロナ対策について	大雨・台風等の季節の際に避難所におけるコロナ感染予防対策の準備は出来ているか、また感染者が発生した場合の対処を周知してもらえると不安・混乱も和らぐように思う。
2	徳島の観光について	徳島県で生まれ育ったのもっと徳島のいい所を県外の人に知って欲しい。LEDで企業と協力して西日本最大のイルミネーションスポットを作ったり、自然を生かしたアクティビティを増やしたり、医者が多いので病児保育を増やしたり、女性社長が多いので不妊治療や子育てをしながら働ける職場作りをしてはどうか。
3	マリニピアの新たな将来について	マリニピアコンテナターミナルは、その機能が小松島に移ったことで広大な土地が未利用状態になっている。貨物船の誘致などで四国の内航港湾拠点とすべきである。 またそれに伴う観光推進を行うべきである。
4	剣山のトイレの改修について	過去に剣山に行ったとき、ロープウェイ入り口のところのトイレに「車いす対応のトイレ」がなかった。車いすで山に登れなくても、せめてそこまでは連れて行ってやりたいので早急に対応していただきたい。
5	玄関にLEDバーを設置することについて	現在空き家が多くなり、各家庭への関心も減っている。LEDでお知らせバーを作成し、各住居の玄関に設置してはどうか。問題ない時は緑、災害時・SOSの時は赤になる。取り外して、遠くの方との情報伝達もできるのではないかな。
6	漢方生薬国産化支援について	漢方生薬を生産希望の農産者への行政支援を要請する。 以前は国内でも生薬生産が行われていたが赤字経営が続くため生産を止めている。海外からの輸入量も減っており生薬原料が値上がりして価格が上がることで漢方薬を希望する人が困っている。
7	徳島県のライブハウスについて	徳島県にはコンサートホールはあるが、ライブハウスは1軒しかない。収容人数1000人ほどのライブハウスが徳島駅前に行ければ駅前が明るくなるし、県外からのファンがたくさん来ると思う。阿波踊りが好きなように音楽がとても近い存在にある県なので、実現して欲しい。
8	大雨時の浸水予測について	本県では雨量計を各地に設置して、各河川の水量を計測していると思うが、あらかじめ予測される雨量から堤防決壊などを予測してどの地域にどの程度の浸水が起きるか警告するようなシステムはないかな。
9	Wi-Fiを使った火災報知器について	火災予防第一だが、予期せぬところから出火することもままある。そこでWi-Fi（フリーを含む）と組み合わせた火災報知器を提案したい。

県政運営評価戦略会議委員名簿

	氏 名	現 職 等
会 長	石田 和之	関西大学 教授
副会長	阿部 頼孝	徳島文理大学 名誉教授
委 員	伊庭 佳代	(一社)美馬青年会議所 組織支援室 副室長
〃	植田 美恵子	徳島女性農業経営者ネットワーク顧問
〃	加藤 研二	阿南工業高等専門学校 准教授
〃	近藤 明子	四国大学 准教授
〃	坂本 真理子	NPO法人郷の元気 副代表理事
〃	田村 耕一	徳島大学 理事(広報・渉外担当)・副学長
〃	鳴滝 貴美子	和田島漁業協同組合女性部 部長
〃	南波 浩史	共立女子大学 教授
〃	久岡 佳代	かいふの木の家 事務局長
〃	藤原 学	(一社)徳島県労働福祉会館 理事長
〃	榊本 久実	税理士
〃	三木 潤子	親子ふれあい教室 みきはうす 経営